

山雲水月

発行責任者 龍源寺 住職 渡辺龍道

平成20年

龍源寺年間行事予定

- 1/1~1/3 年頭祈禱・年賀受
- 1/4~1/7 年始挨拶
- ※1/10 年賀寺例
- ※2/3 大節分会
- ※2/15 釈尊涅槃会
- ※3/9 大般若・大施食会法要
- ※3月中旬 筆供養法要
- 3/18~3/24 春季彼岸会
- 3/23 旧蚕影山例祭日
- ※4/8 釈尊降誕会(花祭り)
- 4/29 大施食会兼蚕影山例祭法要
- ※6/7~6/8 高崎経済大研修参禅合宿
- ※6/21~6/22 第46回群馬緑蔭禅の集い
- 7/13~7/16 京浜地区檀信徒棚経
- ※7/28~7/29 第27回子供禅の集い
- ※8/10 中元寺例
- 8/13~8/16 盂蘭盆会
- ※9/18~9/19 東洋大学研修参禅合宿
- 9/20~9/26 秋季彼岸会
- ※10/18檀信徒参拝研修旅行
- ※11/29~11/30 早稲田大学研修参禅合宿
- ※12/8 釈尊成道会
- ※12/10 歳暮寺例
- ※12/31 除夜会
- ※毎週土・日曜日 書道教室
- ※毎週水曜日 定期坐禅会
- ※隔週水曜日 梅花講稽古・華道教室
- ※は、御本寺仁叟寺にて開催

仏像修復事業計画について



既に当寺報「山雲水月」紙上でご紹介のとおり龍源寺の本尊・釈迦如来仏像はじめ脇侍仏である文殊菩薩像、普賢菩薩像が要修復と判定されました。ほか、当寺に遺されている貴重な仏像、観音菩薩像および地藏菩薩像も緊急に修復を要する段階に差し掛かっております。

そこで、現在役員会を中心に修復事業の進行方針などを鋭意検討中でございます。詳細は来年度の檀信徒総会の席上にてご説明申し上げます。何卒、ご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。

修復時期は来年度を予定しております。

↑ 本尊・釈迦如来仏

す。なお、本尊様・釈迦如来像及び両脇侍は、今からおよそ300年前になる享保2年（1717）6月15日に作成奉納された由緒ある仏像でございます。歴代の住職、檀信徒、地域の皆様方が護ってこられた仏像でございますので、今回の修復事業は是非とも成功させてい



↑ 脇侍・文殊菩薩像



↑ 脇侍・普賢菩薩像

ただきたく思っております。

→ 観音菩薩坐像



ほうじゅうどう

仁叟寺通信-24- 研修会館兼小斎場「鳳寿堂」完成



↑ 鳳寿堂外観 行っている宿泊を伴った各種研修会や参禅合宿、子供坐禅会などで活用できます。早稲田・東洋・高崎経済各大学のほか、群馬県曹洞宗青年会主催の緑蔭禅の集いや今年で第27回目となる子供坐禅会でも使用されました。ほか、小斎場として利用することも出来

仁叟寺北東に樹齢350年の町指定天然記念物きつりつ「モクの木」が屹立しております。そのモクの木の際に、今年7月、吉井町長根の上原建築施工により14坪の研修会館兼小斎場「鳳寿堂」が完成いたしました。



↑ 鳳寿堂内陣の様子



鳳寿堂は、研修会館として、現在、本尊として仁叟寺に江戸時代中期から伝わる阿彌陀如来立像を、「西方阿彌陀」の言葉通り堂の西側へお祀りいたしました。利用規約は希望者に配布いたしますので、当寺までお問い合わせください。なお、仁叟寺及び龍源寺檀信徒は優先的に利用することが出来ますので、お問い合わせ下さい。

←本尊阿彌陀如来立像（江戸時代作・現在修復作業中）

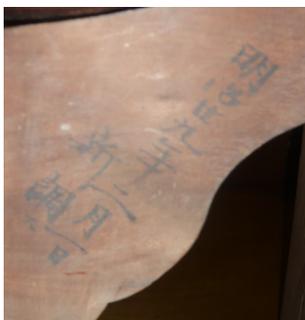
たいこ

龍源寺探索-21- 「太鼓」

今回の龍源寺探索では、当寺に遺されている「太鼓」を紹介いたします。

仏教伝来と同時に雅楽も我が国に伝わり、太鼓もその際にもたらされました。時刻を告げ、祭りでの打楽器、儀式を荘厳に行う法具として発展したほか、軍事的にも使用されました。

当寺にある太鼓は、今からおよそ112年ほど前の明治29年（1896）2月1日に、新添されました。現在も、4月29日の昭和の日に行われている大施食会法要とともに行われる蚕影山御祈禱会の際に、使用されており、その音色を響かせております。



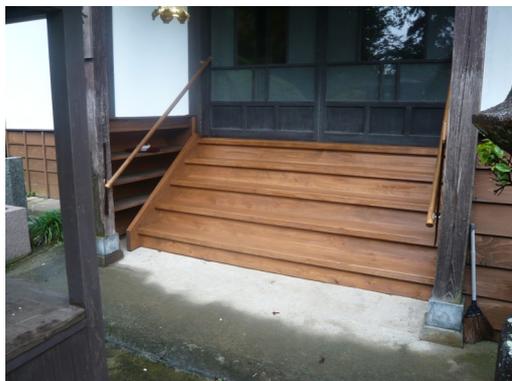
↑ 遺されている銘「明治廿九年二月一日新調ス」と墨書されている



↑ 本堂に安置されている太鼓

本堂入口階段を修理いたしました

本堂入口の階段がシロアリ被害のため、危険な状態でありました。そこで、檀信徒でもある吉井町吉井の加部建築さんに依頼し、今年のお盆前に階段の修理工事を行いました。



↑ 新たな本堂入口階段



↑ 工事中の本堂入口階段

であったという声もあったため、段数を一段増やし、手すりを左右両側に設置いたしました。また、階段の下部には湿気を抑えるため、本堂床下と同じく炭を敷き詰めましたので、次のシロアリの被害はないだろうと思われます。

また、塗装は同じく檀信徒である田中塗装さんに依頼。同階段は、本堂の入口でもありますので、綺麗に一新されたことありがたく思うとともに茲にご報告を申し上げます次第です。

ちょうじゅそう もっこしや

特別養護老人ホーム「長寿荘」物故者追善法要

本年のお盆にも、仁叟寺住職が理事を務め、サンコー寺本欣一社長が理事長を務めます高崎市井野町の社会福祉法人豊生会の特別養護老人ホーム「長寿荘」に於いて、恒例の物故者追善法要が営まれました。

この法要は、毎年春秋のお彼岸会及びお盆の時期に執り行われ、同施設で亡くなった方々のご冥福をお祈りいたしております。導師は、仁叟寺住職もしくは龍源寺住職が務め法要終了後は、それぞれの折にちなんだ法話を行っており、恒例の行事となっております。



↑ 法要風景

ぜんりんかい

社会福祉法人全林会理事を拝命

本年3月31日付けで、社会福祉法人全林会の理事職を住職が拝命いたしました。同法人は、来年4月1日から開園する保育園「めざめ保育園」の運営母体となっております。理事長は全林寺田川昭巳御住職が、保育園園長を西光寺田川義昭御住職が務める予定となっております。田川師は、富岡市内での保育園園長を歴任されており、保育行政に精通。このたびの念願であった地元吉井町での開園に至ったわけであります。

町内では4ヶ所目となる保育園「めざめ保育園」は、吉井町小暮の全林寺さま前に建築予定であり、来年度より新入園児を募集しております。歴史ある寺院が傍にあるため、情操豊かな児童教育が涵養できうるものと確信しております。入園希望の園児さんがおられるご家庭に於かれましては、是非めざめ保育園へのご入園をお勧め申し上げます。



東洋大学仏教会・東洋大学仏教青年会設立

東洋大学仏教青年会（YMBA@TOYO）・東洋大学仏教会（TBA）が、本年4月1日（火）に正式に発足いたしました。仏教会会長は住職の叔父である渡辺章悟東洋大学文学部教授。専門はインド哲学・般若心経・中観思想などで、最近文学博士号を取得いたしました。

同会の簡単なお紹介を下記に掲載いたします。入会を希望される方は、同会もしくは龍源寺・仁叟寺までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

活動内容ほか

約100年の時を経て再興された東洋大学仏教会及び東洋大学仏教青年会では、現在仏教に親しみかつまた社会に「活かす」機会の場を提供し、活動を始めました。同大学での仏教講義のほか、研修旅行、声明、坐禅、各種講演会などを精力的に行っております。特に坐禅研修は、今年秋に仁叟寺を会場として研修参禅会を行う予定です。発足記念式典には住職が参加し、仁叟寺東堂・仁叟寺住職共に会員にもなっております。同会の益々のご隆昌を祈念申し上げます。

同会の詳細は、〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学インド哲学科第8研究室気付
東洋大学仏教会事務局長 岩井昌悟氏まで Tel: 03-3945-7393(-7357)
E-mail: tba.bussei@gmail.com URL <http://www.toyo-ymba.org/>



第46回群馬緑蔭禅の集い無事圓成



去る6月21日（土）～22日（日）に掛けて、第46回群馬緑蔭禅の集いが、仁叟寺を会場に開催されました。同坐禅会は、群馬県曹洞宗青年会（会長・河村史明師）が主催、曹洞宗群馬県宗務所が共催、群馬県内の曹洞宗各寺院ほか団体の後援のもと企画運営を行っております。本年はテーマを「良寛さんに学ぶ」と題し、良寛研究家の金井重明氏を講師に招き、一泊二日の研修参禅会を修行いたしました。

本年は、10代から70代までの老若男女が、県内外より45名参加し、青年会若手宗侶35名と共に、修行生活を体験いたしました。

←群馬緑蔭禅の集いの新聞記事（上毛新聞6/25付）

行雲流水（編集後記）

編集人 住職 渡辺龍道

週三回の曹洞宗群馬県宗務所勤務のほか、龍源寺住職兼仁叟寺副住職を務めさせていただいております。お蔭様で、『仁叟寺誌』編纂は、昨年夏に無事終了し、刊行する事が出来ましたが、仏像修復事業等、まだまだやらなくてはならない事柄が山積しております。何卒、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

また、拙僧の叔父である渡辺章悟東洋大教授が仏教青年会及び仏教会を再興いたしました。これからは「心の時代」と云われております。龍源寺・仁叟寺では多くの行事があり、様々な活動を行っておりますが、更に当寺で出来る事を発信しようと思っております。



↑今年も満開の古代蓮